

【01】

女猿の妖怪クウは他の妖怪猿を従え、王として妖猿洞に君臨していた。

しかしある日、仲間が賊に攫われたため、クウは妖猿洞を飛び出し賊が潜むという隠し砦へと向かうのだった。

・次へ

[→ 0 2 へ](#)

・遊び方を見る

[→ 2 0 0 へ](#)

【02】

クウは妖猿洞から出るなり早速、賊の一人を見つけた。
油断している賊に後ろから襲い掛かり、クウは賊の陰茎へ跨った。

性闘では先に精力が尽きてしまった方が敗北となる。

だが下っ端の賊程度にやられるはずはなく、クウはあっという間に素股で男を倒してしまった。

クウ 精力-10 (残90)

[→03へ](#)

【03】

男を倒し、その勢いで賊の隠し砦がある林までやってきたクウ。
ここから先には見張りも大勢いるだろう。いくらクウでも油断は出来ない。
どうする？

・ 正面突破

→ 04へ

・ 草の中を隠れて進む

→ 19へ（体験版では選べません）

【04】

クウは名乗りを上げて賊たちの前へ姿を現した。
縄張りに侵入してきた女猿を捕まえようと大勢の賊たちがクウを囲む。
逃げ場は無い。

[→05へ](#)

【05】

多勢に無勢だが戦うしかないようだ。

先手必勝で目の前の男に騎乗位で跨り、左右の手で二人の男の陰茎を扱き始める。

すると三人の男はあっという間に射精し力尽きた。しかしまだまだ敵は大勢待ち構えている。

クウ 精力-10 (残80)

[→06へ](#)

【06】

何人目かの男を射精させた直後、クウは不意打ちで後ろから挿入を受けてしまった。

後背位。クウが最も苦手とする体位であった。

なんとか快感を堪えつつも陰茎を扱く手も緩めない。

クウ 精力-30 (残50)

[→07へ](#)

【07】

背後の男を射精させても間髪入れずにまた次の陰茎が挿入される。もちろん体勢は後背位のまま。

もう十数人は射精させているはずだが賊の数は一向に減る気配が無い。

後ろから乱暴に膣内を突かれ続け、クウの頭の中は徐々に桃色に染まっていつてしまう……。

クウ 精力-40 (残10)

このままでは万事休すとなることは明らかだ。
なにか手を打つしか無い。

・男に向かって脚を突き出す
→08へ

・男に向かって尻を突き出す
→09へ

【08】

クウは最後の力を振り絞り、背後の男に蹴りを入れた。

虚を突かれた男は姿勢を崩しそのまま大きな音を立てて尻もちをついてしまう。

逃げるなら今しかない。クウは前方の男達の間を潜り抜け、茂みの中へと身を隠した。

[→10へ](#)

【09】

クウは最後の力を振り絞り、背後の男に向かって尻を突き出した。突然の刺激に男は驚き、そのまま射精してしまう。クウの思惑通りだった。挿入されていた陰茎が抜けたため今なら逃げられるかも知れない。クウは男たちの隙をついて茂みへ逃げ込もうとしたが……。

クウ 精力-10 (残0)

尻を突き出した時にクウも刺激を受けてしまっていたのだ。

時間差の快樂で腰を抜かしてしまい、力の抜けた悲鳴を上げながらその場にひっくり返ってしまう。

精力が尽きてしまったクウはもう立ち上がることも出来ず。

こうしてクウは性闘に敗れ、賊に捕らえられてしまうのだった。

[→ 14へ](#)

【10】

茂みの中へと隠れ、絶体絶命の状況をなんとか乗り越えたクウ。

だが残り精力はギリギリだ。どこかで回復しなければこれ以上の戦いは出来ないだろう。

どうする？

・一旦、妖猿洞に戻って身体を休める

→ 11へ

・食べ物を探す

→ 60へ（体験版では選べません）

【1 1】

隠れながら来た道に戻っていき、クウは妖猿洞へと帰った。

仲間の妖怪猿たちはボロボロのクウを見るなり、大慌てで果物や酒を持ち出した。

クウ 精力+40 (残50)

なんとか最低限の精力を取り戻したクウ。

このままもう一度賊の隠し砦へ向かうか、それとももう少し休むか……。

・賊の隠し砦へ向かう
→ 1 2 へ (体験版では選べません)

・全回復するまで休む
→ 1 3 へ

【12】

体験版では読めません。

【13】

大事をとってもう少し休んでいくことにした。
果物や酒に酔いしれ、やがて仲間全員で宴を始めてしまう。

クウ 精力+50 (残100)

酔っていい気分になったところでクウはイビキをかいて眠りこけてしまった。
普段はどんなに酔っていようと嚴重に守られた寢室まで戻るクウであったが、
先程の戦いの疲れが残っていたのだ。
彼女の無防備な姿を見て、妖怪猿たちはごくりと生唾を飲み込む……。

→ 15へ

【14】

クウは牢の中で無数の男たちに犯されていた。

いくら泣いても、絶頂しても、気絶しても、全員の男が満足するまで強姦が止まることは無い。

両手両足には鎖が繋がれ逃げることも出来ない。

クウは快楽で狂ってしまわないように歯を食いしばって必死に絶頂を耐えていた。

もはや彼女にはその程度のささやかな抵抗しか出来ることはなかった。

その抵抗すら、男が何度か挿入を繰り返すだけであっけなく無駄になってしまふ。

もう何度目かも分からない深い絶頂に身を堕としながら、クウはいつかこの凌辱に終わりが来ることを願うのだった……。

ゲームオーバー 01
『賊の慰み者』

[→最初から](#)

【15】

クウ 精力-20 (残80)

眠ったままのクウに腰を打ち付ける妖怪猿たち。

普段偉そうに振る舞っているクウを好き放題犯せるなど、この機を逃せば永遠にやっては来ないだろう。

何匹もの妖怪猿たちが彼女に欲望を吐き出していく……。

クウ 精力-20 (残60)

犯されているというのに疲れ果てて目を覚まさないクウ。

だがその頬は紅潮している。眠りについていても快楽を感じているのだ。

クウ 精力-20 (残40)

[→ 16へ](#)

【16】

日が暮れ、ようやく目を覚まし事態を把握するクウ。
自分に馬乗りになっていた妖怪猿を怒鳴りつけるが、凌辱が止まる気配は無い。
興奮で我を忘れてしまっているのだ。

それどころか起きたクウに対し、周りの妖怪猿たちはガチガチに勃起した陰莖を差し出した。

どうやら全て鎮めるまで淫らな宴は終わらないらしい。

クウは渋々、妖怪猿たちの一物を扱き始めた。

クウ 精力-20 (残20)

[→17へ](#)

【17】

そうしている内にクウも段々と悶々とした気持ちになってしまっていた。

眠っていたとはいえ今までずっと膣内を犯されていたのだ。並の女なら起きた瞬間に蕩けてしまっている。

クウが正気と精力を保っていたのは、妖怪猿たちの王を名乗るだけあり彼女に力があったからだ。

しかし限界は訪れる。

クウ 精力-10 (残10)

膣内が弱々しく痙攣を始め、クウは快感の頂へと辿り着きつつあった。

それに気付いた妖怪猿はより一層興奮し腰を打ち付ける速度を上げる。

そして……。

クウ 精力-10 (残0)

とうとうクウは**絶頂**を迎えてしまう。

[→18へ](#)

【18】

賊を成敗しにいったはずが、まさか従えていた猿たちに犯されて絶頂してしまうとは誰が予想できたであろうか。

力尽きたクウはその後も妖怪猿たちに輪姦され続けていた。

だが彼女の表情は幸福感に満ち溢れていた。

目交うことに一生懸命になり、もはや攫われた仲間のことなど頭の片隅にすら無い。

この日からクウは妖怪猿と性交するだけの毎日を送るようになってしまった。

賊を成敗しなかったため、今後も仲間は攫われ続けるだろう。

しかし、そんなことはもう些細な問題なのかも知れない。

何故ならいなくなった仲間と同じ分だけ。あるいはそれ以上。

彼女が新しい同胞を生み出すだろうから……。

ゲームオーバー 02
『永久の宴』

[→最初から](#)

【19】

体験版では読めません。

【200】

～遊び方～

ページ内に選択肢が現れた場合、好きな選択肢を選び、読み進めてください。

(選択肢がない場合はそのまま次のページへお進みください)

選択肢にはページ内リンクが設定されているため、タップ（クリック）すれば指定されたページへジャンプすることが出来ます。

DLsiteのブラウザ視聴等、環境によってはページ内リンクが使えない場合があります。その場合は手動でページを進めてください。

～精力について～

HPのようなものです。基本的に0になると敗北し、ゲームオーバーとなります。自動で増減するためプレイヤー側で管理をする必要はありません。雰囲気づくりのようなものです。

主人公が今どんな状態なのか知るための指標にもなります。

～チェックについて～

本作品には5つのアイテム（または術）が登場します。

アイテムには壺から伍までの数字が割り振られているため、もし忘れてしまいそうならお手元のメモなどに記しておけば管理しやすくなります。

[→最初のページへ](#)